

2022年3月期第2四半期 アナリスト・機関投資家向け WEB 説明会 質疑応答要旨

株式会社フェローテックホールディングス(6890)

◇ 開催日時：2021年12月22日（水） 16:00-16:45

Q1: 中期経営計画の2023.3月期目標を早期達成見込みとのことだが、当初計画時と比べ市場状況がどう変わってきているのか？

設備投資も急がなければいけないとのことだが、御社の顧客である日米中の半導体製造装置メーカーからの引き合い状況はどういうペースで伸びてきているのか？向こう2~3年先あるいはもっと先を見据えてのものなのか、製品別でも半導体材料を中心にどういったレベルの納品要請が来ているのか、教えていただきたい。

A1: 現状、半導体業界では装置メーカー、デバイスメーカーともに忙しい折、今年は約26%の成長になるが、この成長スピードがいつまで続くかという話については、現時点の見立てで来年も私は20%前後成長できると考えている。日米の装置メーカーに加え中国メーカーも当社に注文を出してくるようになり、それぞれ生産能力増強要求がある。また、米中貿易摩擦、ハイテク産業の摩擦が続くなか、中国政府は早期に自国内のデバイス工場を作りたいと考えており、当社もその動きに合わせてこの2年は生産能力を増強してきた。

パワー半導体基板は、去年の後半ぐらいから増えてきたが、売上高で今年は去年の倍、来年も今年の倍ぐらいになると見込んでいる。生産能力はどのくらい拡大してるかというと、DCB基板：110万枚/月、AMB基板：20万枚/月、DPC基板：80万枚/月に能力増強中である。DCB基盤ラインはフル稼働しているが、それでも要求に足りておらず30%ぐらいの注文は受けられていない状況。AMB基板もどんどん増えていく状況で、現状7~8万枚の注文が入るが、来年は15万枚ぐらい、年末ぐらいには20万枚でフル稼働の状態になると見ている。対象顧客としては電気自動車メーカー、通信関係、医療機器関係などである。

サーモモジュールもかなりアプリケーションが増えており、こちらも生産能力を増強する。エンドユーザー向け応用製品も去年から作り始めたが、来年は大きい注文も受けられる体制にする。自動車向け温調シートは減ったが、他が補完して増えてきたので、生産能力増強をスピードアップしていきたい。

こうした背景から2025年までは成長基調は継続すると見ている。

Q2: 2022年は20%の成長イメージとのことだが、（業界ではなく）御社としての成長イメージという意味か？

A2: YES。今の見立てでは、少なくとも15%以上は成長できるのではないかと考えている。

Q2-2: 御社の場合、新規の製造装置の需要に加え消耗品も含むため、新規製造設備の一般的な指標である WFE の成長予想よりも高い伸びを示しそうだと考えられるがその認識でよいか？

A2-2: ご指摘のとおり装置向けに加え消耗品も伸びる。また、大手装置メーカーからは大幅に生産能力を増やしてほしいとの要望がある。石英製品の火加工熟練工の増強や、自動化投資も図りたい。機械加工設備も現状で足りず、常山工場ですべて増産できるか検討中である。

あとセラミックス、シリコンパーツ、(真空チャンバー等の) 金属加工の能力も大幅な能力拡大を考えている。

Q3: 利益率が中期経営計画よりも向上している理由は何か？

A3: 理由としては、①量が増えたこと、②かなり自動化を進め効率化を図ったこと、③省人化に力を入れてやってきたこと。我々は3年ぐらい前から取り組み結果が出てきたし、次の3年間でもかなりスピードで取り組みたい。

Q3-2: 投資を進めているが、設備は増えても省人化を同時に進めるので利益率は向上するという認識でよいか？

A3-2: YES。

Q4: 中国子会社 IPO についてはどのような時間軸で進展するのか？

A4: まだ時期確定ではなく、あくまで現時点の見通しだが

①部品洗浄子会社 IPO については、この6月に上場申請し、審査手続きに入っているが、上場承認は来年の半ばぐらいではないかと思われる。

②シリコンウエーハの会社(持分法)の方も順調に進んでおり、上場申請は来年半ばぐらいになると考えている。

③シリコンパーツと石英るつぼの子会社及び④パワー半導体基板の子会社については来年後半の申請を考えている。

Q5: 2031年3月期に売上高3000億円、営業利益300億円は御社の割には目標が低い印象だ。営業利益1000億円、営業利益率30%ぐらいで考えていいのではないか？

また、もっと早く目標達成できると思うが、達成のための設備投資がどの程度必要か？

A5: 昨年中長期経営計画を発表するときはまだ売上高が1000億円にも達していない状況だったが、現状は発表時より自信が出てきた。営業利益の目標も高い目標を出せるよう検討をしていきたい。

設備投資水準は既に発表済みの950億円にプラス数百億で1000億円を超えるレベルが必要となるのではないかと考えている。

Q6: よく投資家さんからフェローテックホールディングスは日本企業なのか、中国企業なのかと問いかけられる。いま企業が中国政府から投資制約を受けるような局面が散見されるが、御社での投資の自由度や中国政府から後押しを受けて比較的自由に動けるような状況なのかについて教えてほしい。

A6: まず、フェローテックホールディングスは国際的な企業で、日本に上場し本社を日本にもつ企業であり、中国企業ということではない。

ただ、中国の優遇政策を受けること自体はかなりできている。投資の自由度に関しては十分あり、希望する投資はできている状況である。

Q7: シリコンウエーハの会社は、12 インチは 20 万枚/月を目標としているが、この 10 年のスパンで見ると 300mm ウエーハの市場規模は月産 1000 万枚が想定されるなか、10 年後までにどのくらいの生産能力を持ちたいか？

品質面でも中国企業やグローバル企業の品質に敵えていけるものになっているのか？

A7: ご存じのように、半導体の世界は事業を始めたらキリがなく、かつこの市場のスピードに合わせていかなければならない。

現状 12 インチは 20 万枚/月、8 インチは 45 万枚/月を目指す、それで終わりかといわれれば、私はそれでは終わらないと思う。エピタキシャルウエーハの工場も浙江省の麗水市で 11/17 に着工式を実施した。このように投資はどんどん拡大していくが、現行 10 年後のレベルは言及できない。

品質面も中国内で生産する企業としてはかなり高い方ではないかと思う。もちろんシリコンウエーハのリーディングカンパニーと比較するとまだまだ頑張らなければいけないが、中国国内ではかなり良い評判を得ているし、日本企業にもいろんな会社にプライムのウエーハを納めるなど評価されつつある。米国、シンガポール、欧州、韓国、台湾へ進出し、評価されては始めている。

Q8: 来年 5 月の年度決算発表時に、今の中期経営計画を見直すのか？最終年度の目標値達成も見えてくると思うが、そのままいくか、別のものを出すのかなど考え方を教えてほしい。

A8: 検討中だが、中期経営計画を今一度見直して発表したいと意向はもっている。

※ 本資料は当社の「ディスクロージャーの方針」に基づき、「フェア・ディスクロージャー」の観点から、IR 室 IR・広報部にて、まとめさせて頂きました。